

令和3（2021）年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

■ 概要版 ■

※掲載したデータは全て 3月22日時点集計。

■ 業務実施計画の作成及び公表

- 第6期の事業計画、令和3年度業務実施計画等を作成し、EPO 中部ウェブサイト及び中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載、公開した。

<https://www.epo-chubu.jp/about/target>

第6期のEPO中部及び中部地方ESD活動支援センターの目標と方針

EPO中部及び中部地方ESD活動支援センターの第6期（2021年度～2023年度）の達成目標と業務方針をご紹介します。

第6期の達成目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて
新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

■ ESD/EPO 運営委員会の設置・開催

- 運営委員9名を選定のうえ、下記の通り、2回の会議を開催し、EPO 業務・ESD 業務について意見交換及び諮問を行った。

会議	開催日	主な議事等
ESD/EPO 運営委員会	第1回会議 6月16日 オンライン	運営委員会設置要領について／第6期事業計画と2021年度業務実施計画について／EPO・ESD業務の事務局案について
	第2回会議 1月22日 オンライン	EPO中部の2020年度実施業務について／EPO業務の今後の展開に関わる検討事項について

■ 基本業務

■ ホームページの更新及び維持管理

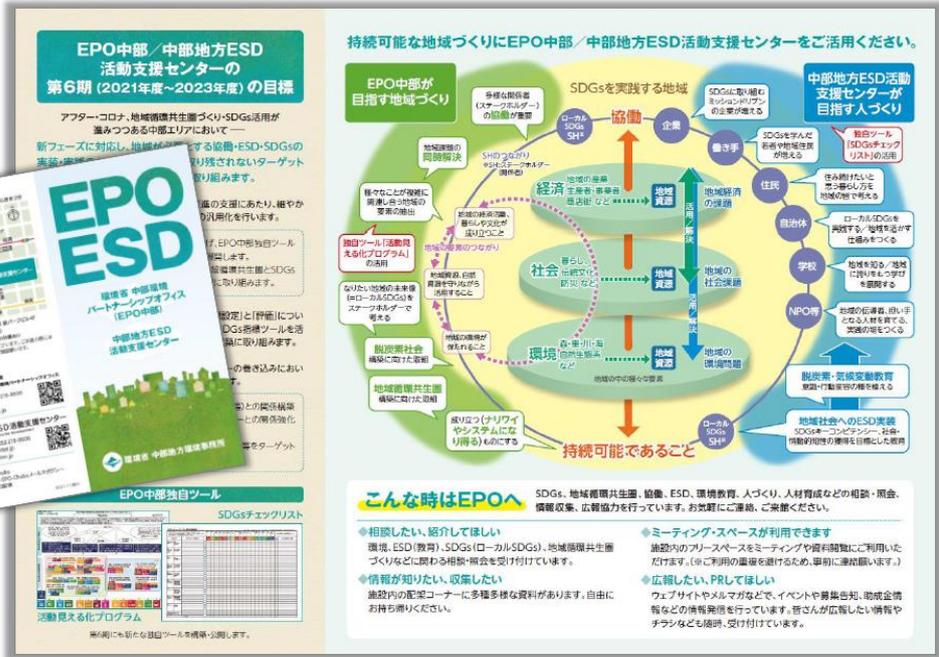
※ 2020年度に実施した EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行した。（従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクス参照に変更した。）次表中の*印の数値は、サーバー会社のアクセスレポートによるデータである。

	URL	年間更新回数・計	年間アクセス数(ページビュー数) 単位:件				
			2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
EPO 中部ウェブサイト	http://www.epo-chubu.jp	000回	* 000,000	* 501,670	* 860,157	* 279,316	* 335,028
中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト	https://chubu.esdcenter.jp	00回		13,132	12,251	10,612	4,857

■ リーフレットの作成及び発行

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターの第6期リーフレットを作成した(11月完成・発行)。

2021年11月に
完成・発行



■ 照会・相談対応（年間合計件数）

- 相談件数、来館数は増加していないが、地域からの講師等としての招聘、地域主体との打合せなど施設外へ出向く打合せ等（及びオンライン打合せ）の件数は増加している。

照会・相談対応							対話の体制の構築		
※ 案件の事例件数	相談に対し支援 等を行った 案件の事例件数	照会・相談対応 等の延べ件数	来館件数 延べ件数※2	相談・照会、 資料配架依 頼等	会議利用	その他情報 収集、資料 収集等	メール・電話 による相談広 報依頼等）延 べ件数※2	会議・セミナー 等 地域活動への 招聘	その他打合せや 地域主体との意 見交換等

※1）事例件数：最初の連絡から対応終了までの（その間の連絡・打合せ等を含めた）案件ごとにカウントした数。

※2）延べ件数：同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数。

■ 施設・設備の維持管理（年間施設利用件数）

業務実施日数	開館日数	来館者数	来館件数	メール・電話による 問合せ件数
256日	233日	166人	83件	191件

■ 協働取組の促進のための業務

■ EPO 中部主催イベントの実施結果

- ローカル SDGs、地域循環共生圏をテーマにした EPO 中部主催イベントを、次表の通り、開催した。

区分	エリア	開催日	参加者	実施内容	開催方法			
①	協働コーディネーターを活用した地域循環共生圏フォーラム	福井県 越前市	11月 20日	23名	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働コーディネーター・三田村氏の協力を得て開催。 ● 後援：福井県、越前市、しらかや振興会、坂口地区うららの町づくり振興会、越前市エコビレッジ交流センター。 	現地会場 開催		
②	協働コーディネーターとの連携による	北陸地域	ワークショップ①	福井県 小浜市	9月 11日	14名	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働コーディネーター・中島氏との連携業務（2年目）。 ● SDGs・地域循環共生圏づくりの普及・啓発事業を展開。 	現地会場 開催
③		ワークショップ②	福井県 小浜市	12月 17日	40名	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働コーディネーター・山室氏との連携業務。 	現地会場 開催	
④	信州	フォーラム	長野県	7月 13日	54名	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働コーディネーター・山室氏との連携業務。 	オンライン 開催	

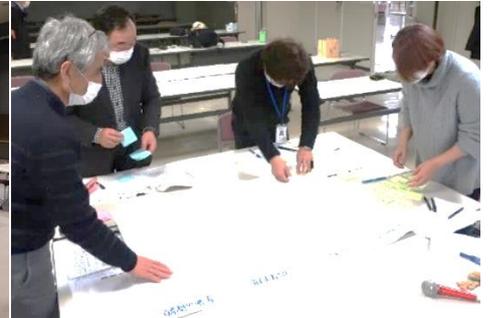
⑤	セミナー	長野県	2月 25日	30名	<ul style="list-style-type: none"> 長野県におけるローカルSDGsの取組の共有、地域循環共生圏コーディネーターの育成を目指した講座として連続講座を開催。(うち初回フォーラムと最終講座のセミナーを連携業務として実施。) 	ハイブリッド開催
⑥	ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーキング	中部	1月 19日	40名	<ul style="list-style-type: none"> 日本福祉大学特任教授・千頭氏による基調講演と、オンラインワークショップによる「地域循環共生圏セミナー」を開催。 	オンライン開催



①越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム「里山里海資源の収益化と地域循環の創出を目指して」



③まちづくり協議会担い手育成研修会



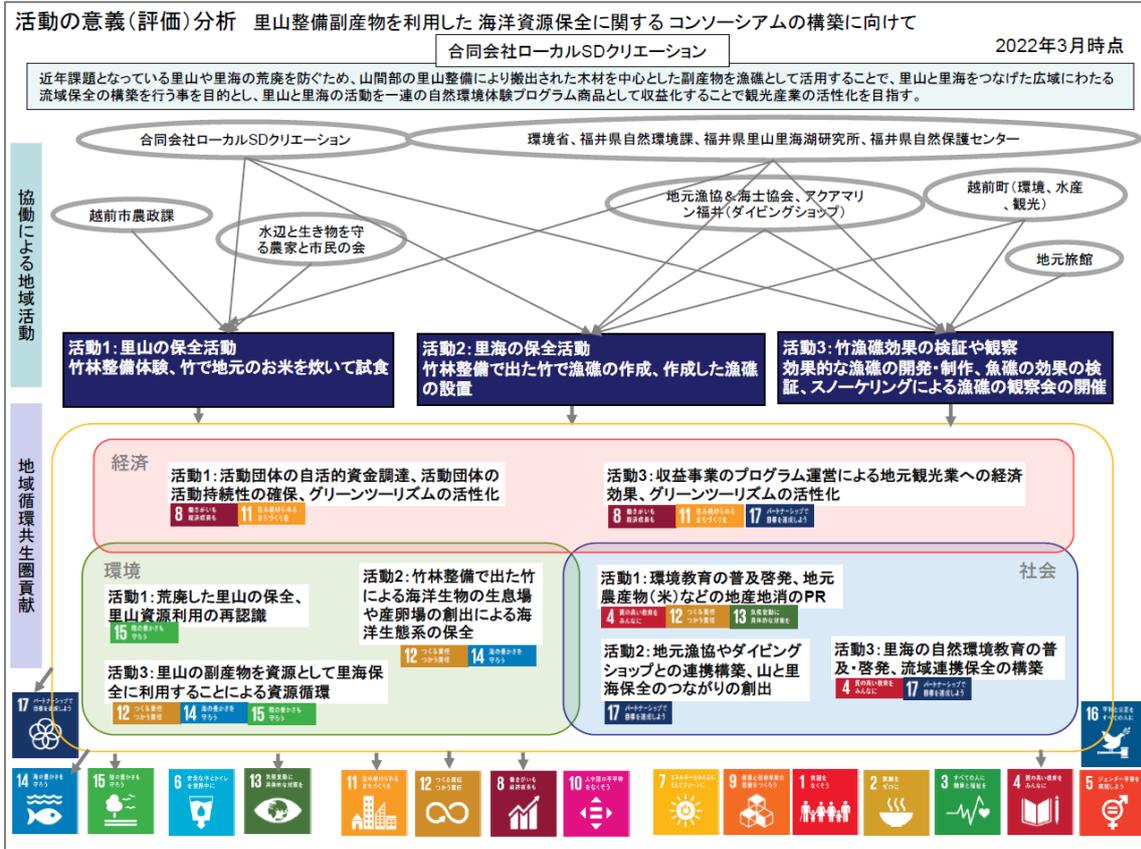
⑤ローカルSDGs テイクオフセミナー
～持続可能なジモづくりをめざして～

活動主体へのフィードバック（活動見える化プログラムの活用）

- 前項の福井県越前市と長野県での地域循環共生圏づくりの地域支援として、独自ツール「活動見える化プログラム」の取組分析チャートを作成し、関連イベントで解説するなどして活用した。

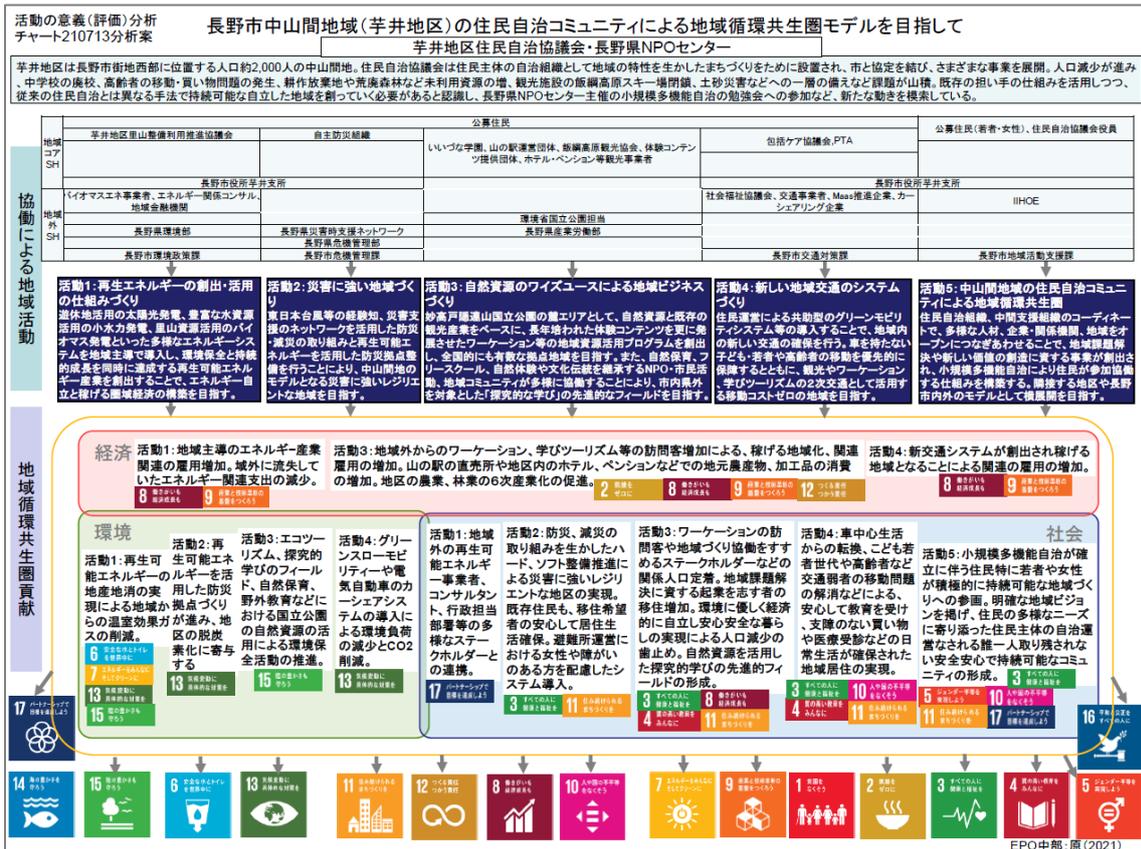
【作成した活動見える化チャート】北陸エリアの事例

里山整備副産物を利用した 海洋資源保全に関する コンソーシアムの構築に向けて



【作成した活動見える化チャート】信州エリアの事例

長野市中山間地域(芋井地区)の住民自治コミュニティによる地域循環共生圏モデルを目指して



中部地方 ESD 活動支援センター—運営業務

第 6 期 ESD 推進計画の策定

- 中部地域の「第 6 期 ESD 推進計画」を策定し、第 1 回 ESD/EPO 運営委員会に諮問した上で確定とした。

第 6 期 ESD 推進計画の策定

第 2 期 ESD 国内実施計画を受け策定

- 持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議（2021年4月）：我が国における「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する実施計画（第 2 期 ESD 国内実施計画）（案）
- 一般社団法人環境創造研究センター（2021年3月）：第 6 期 EPO 中部運営企画提案内容（令和 3 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務企画書）
- 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議（2020年2月）：＜参考資料 2＞中部地方 ESD 活動支援センターの活動方針についての検討（事務局整理案）

↓

中部地方 ESD 活動支援センター 第 6 期 ESD 推進計画（章立てと策定方針案）

- 計画の位置づけ
第 2 期 ESD 国内実施計画に基づき中部 ESDC 第 6 期 ESD 推進活動方針を示す。
- 課題認識
地方センターに期待される 4 機能に対する課題抽出を行う。
- 重点
資料②で提案した第 6 期の重点を示す。
- 推進のための戦略
資料②で示した計画提案と今年度の仕様書を踏まえ第 6 期の戦略を整理する。

中部地方 ESD 活動支援センター 第 6 期 ESD 推進計画（素案）- 1

- 計画の位置づけ
第 2 期 ESD 国内実施計画が策定されることを受け、中部地方 ESD 活動支援センターの第 6 期（2021 年度～2023 年度）の ESD 活動推進の方針と戦略を示す。本計画に基づき各年度において運営委員会の助言のもと、特に EPO 中核が担う地域循環共生圏構築（ローカル SDGs 推進）のための人づくり支援するという観点で、中部地方における ESD 活動を推進する。
- 課題認識 中部地方 ESD 活動支援センターに期待される 4 機能に対する実績と課題
 - 情報共有機能
ESD 推進ネットワーク、学術界、地域温暖化防止活動推進センターなど様々な関係者を通じた情報共有を実施してきた。全国センターと連携し、各地方センターや地域 ESD 拠点の他、多様な ESD 関係者と連携した関係構築を進めるとともに、ESD による人材育成の重要性を普及啓発することが必要。
 - ESD 活動に関する各種相談対応や連携促進等の支援機能
活動プラットフォームとして情報発信、ツール提供、相談対応の支援を継続してきている。SDGs フェアリストなど ESD ツールやメソッド、地域 ESD 拠点等を通じた人材や方法、ネットワークの活用を高め、より効果的な共生圏構築のニーズに沿った支援を行うことが必要。
 - ネットワークの形成及び学びの場の促進機能
大学生や高校生等のコースの学びの場、自然遺産を活かした ESD 交流の場などを設定してきた。これらを活かし、より高質な学びの場と社会レベルの実情に沿った広範囲なネットワークの交流の場を拡充することが必要。
 - 人材育成機能
①～③の他、各種講演やワークショップに積極的に人材を派遣やマッチングするなど、人材育成に貢献する支援活動に取り組んできた。これらに加え ESD やローカル SDGs などの専門家との連携をさらに深め、人材育成の枠組みと手法事例を中部地方拠点で整理・発信することが必要。

中部地方 ESD 活動支援センター 第 6 期 ESD 推進計画（素案）- 2

- 活動の重点 「ローカル SDGs ための ESD の社会実装」に向けて
中部 ESDC は福地 EPO 中核に利益を上げているという位置づけから、教育機関内のフォーマル教育に留まる外からの取組ももちろん、職業学習や生涯学習等の ESD 取組も重視する。また生涯学習の取組により今後 ESD が進展する小中学校だけでなく、それ以上の社会人（特に取り扱われる可能性のある中小企業）や大学生、高校生などユース世代のローカル SDGs 実践の取組力として期待される対象の ESD 推進を支援する。
- 活動推進のための戦略
 - 中小企業の SDGs 取組のための ESD 促進
第 5 期で作成した SDGs チャレンジリストを中核とした WS パッケージを運用し、社会人 ESD の展開を支援する。また活動コーディネーター等による SDGs 普及促進取組や金銭的支援との連携による SDGs 教育の展開を支援する。
 - 高等教育（大学、高校）と自治体、企業の SDGs 取組における ESD 交流の推進
企業や自治体などの業界との SDGs 取組を踏まえた大学生や高校生との交流企画を ESD の場として設け、ユース世代のための ESD ネットワークを構築・展開する。
 - 自然遺産を活かした学校教育と連携した地域づくりの促進
ユネスココトバウの ESD ダイアログの実施を基盤に、ESD を通じた国立公園、ジオパーク、世界遺産などの自然遺産を活用した地域づくりの取組を支援する。
 - 「(仮称)中部 ESD ワークブック～学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」の作成
取組の整理は、現用性を高めたコンテントとして活用できるように実施するとともに、ツール化、パッケージ化し、「ESD ワークブック」として公開、活用することを目標とする。
 - ワークブックには「持続可能な開発目標のための教育～学習目標～」の 8 つのキーコンテンダー（「複雑なニーズに前向きな能力」の獲得、向上を促す内容を盛り込み、中部地方の事例に基づく様々な取組に対応するパッケージとして）となる検討を進める。

ESD 推進のためのフォーラム、ダイアログ（対話の場）の開催

主催イベント	開催日	開催方法	参加者数	内容
ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラム	2月19日	オンライン	オンライン 115 件	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に続く、「SDGs 学生サミット」として開催。 8大学の学生チーム、SDGs 未来都市 3 自治体が登壇して取組発表を実施。
自然資産を活かした地域・人づくり ESD ダイアログ	11月13日～14日	ハイブリッド	会場 37 人 オンライン 8 件 エクササイズ 13 人	<ul style="list-style-type: none"> 中部のジオパークの「自然資産を活用した ESD」ダイアログを立山黒部ジオパーク協会の協力を得て開催。 2日目エクササイズでは立山黒部ジオパーク内の「教育」関連プログラム 4 箇所を見学。



ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラム「SDGs 学生サミット」



ESD ダイアログのエクササイズ（魚津水族館）

教育現場の実態把握と連携強化

- SDGs 取組と ESD 実践の専門家、推進を目指す教育現場関係者にヒアリングを実施し、連携強化と情報収集を行った。

	調査対象	ESD の現状の課題について（抜粋）
専門家	古澤礼太氏 中部大学中部高等学術研究所国際 ESD/SDGs センター 准教授	<ul style="list-style-type: none"> ESD は SDGs の基盤的な活動であり、かつ、SDGs のような時限的なものではない 21 世紀の主要な社会づくり手法である。しかし、ESD の考え方を社会に普及させる方法は多様であるため、ESD という名称にこだわった普及啓発活動を超えた方法論が必要であり、その開発が課題だと考える。
教員等	名古屋市立山田東中学校 校内活動に SDGs 学習を取り入れた中学校の担当教諭	<ul style="list-style-type: none"> 取組の実践が一部の先生にとどまっているので、全体的に巻き込んでいくことが重要な課題と思われる。
	名古屋市立楠西小学校 授業に SDGs 学習を取り入れた小学校の担当教諭	<ul style="list-style-type: none"> 今の ESD や SDGs の取組を継続、発展するにあたって学年による内容や展開の仕方が課題と考えられる。

■ 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供

- 地域内外のESD関係者に交流と学び合いの機会を提供することを目的に、SDGs社会教育研究会ワーキング、及び学び合い(全2回)の開催、実践活動(全1回)を次表の通り、実施した。

	実施日	場所	実施内容	参加者
SDGs 社会教育研究ワーキング	7月6日	福井県福井市	1. 自己紹介と参加者ESD活動内容の共有 2. 研究会ワーキングの議論	7
	9月30日	富山県高岡市	1. イベント「学びあい①②」の振り返り 2. ワークブックの議論 3. 実践セミナーの計画	8
	12月16日	EPO 中部	1. 実践セミナー(10/30)、全国フォーラムの振り返り(12/11) 2. ワークブックの議論	7
SDGs 社会教育～学び合いの場①	8月26日	オンライン	○基調講演「ローカル SDGs の担い手に求められる資質・能力、知性とは～持続可能な社会に向けて、好循環を生み出す人のあり方、学び方、働き方」 ○話題提供「求められる担い手:福井県坂井市のまちづくりの取組から考える」 ○パネルディスカッション&フロアディスカッション	65
SDGs 社会教育～学び合いの場②	9月16日	オンライン	○基調講演「ローカル SDGs の担い手を育成する、SDGs 社会教育実践の現場から」 ○話題提供「担い手を増やすために～環境市民プラットフォームとやまの取組」 ○パネルディスカッション&フロアディスカッション	38
SDGs 社会教育～実践セミナー	10月30日	富山県射水市 午前:六渡寺海岸 午後:JFE 体育館 終日 YouTube でライブ配信	【午前】六渡寺海岸視察&ごみ拾い体験 【午後】セミナー&ワークショップ ○話題提供「プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識」 ○話題提供「現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について」 ○グループワークショップ「六渡寺海岸のプラごみからSDGsを考える」 ○ワークショップ結果発表と討論 ○総括「実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民」	現地 24 オンライン 23



SDGs 社会教育～実践セミナーにおける六渡寺海岸でのごみ拾い体験の様子(左)と午後のワークショップの様子(右)

■ 中部版 ESD ワークブック (プロトタイプ版) の作成

- 前項「域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供」の実施内容をもとに、「(仮)中部版 ESD ワークブック～学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」(プロトタイプ版)を作成した。
- 構成・コンテンツ等については、SDGs 社会教育研究ワーキングにおいて検討を行った。

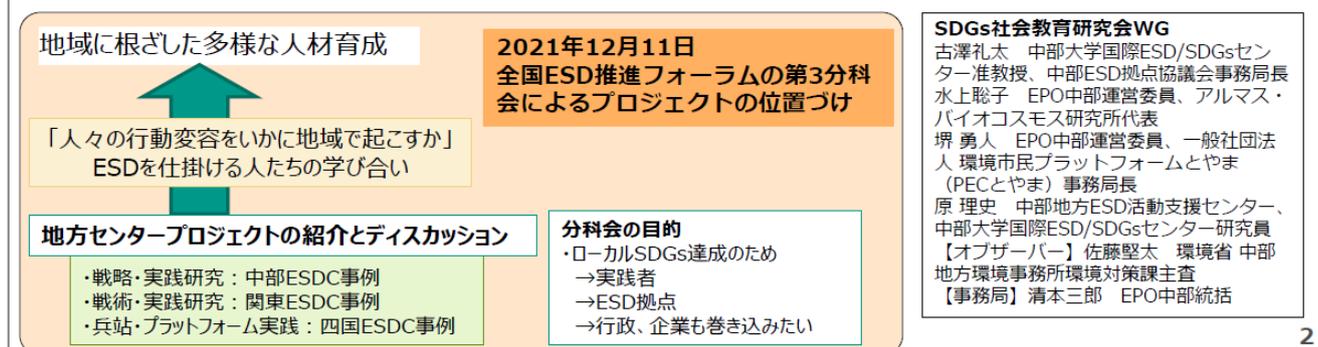
<p>環境省 ESD推進ネットワーク 令和3年度学びあいプロジェクト 令和3年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務</p> <p style="text-align: center;">プロトタイプ版(案)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <h3>現場から学ぶ! SDGs人材育成ワークブック</h3> <p>企業研修/生涯学習/地域づくり SDGs社会教育・学び合いヒント</p> </div> <p style="text-align: center;">中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会</p> <p style="font-size: small;">SDGs社会教育研究会WG 古澤礼太: 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授 中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子: EPO中部運営委員 アルマス・バイオシステム研究所代表 増 勇人: EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま (PECとやま) 事務局長 原 理史: 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員(非常勤)</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px;">現場から学ぶ! SDGs人材育成ワークブック 目次</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ 2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか 3. 実践方法を考える～中部地方の実例から① 4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から② 5. 実践効果をどう考えるか <p style="text-align: right;">3</p>
--	---

はじめに

環境省の事業であるESD推進ネットワークでは、様々な分野でのESD推進を支援しています。全国8つの地方センターのうち中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開してきました。このワークブック（プロトタイプ版）は令和3年度の地方センターそれぞれが特徴のあるテーマに沿って活動する「学びあいプロジェクト」の1年目の活動成果をとりまとめたものです。中部テーマは「社会へのESDの実装」としており、ローカルSDGsを担う人材づくりをSDGs社会教育と呼び、その枠組みを戦略的に検討することを試みました。プロジェクトではSDGs社会教育研究会WGによる3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などの活動を経て検討を進めてきました。これらの結果を元にして社会ESDの現場でヒントとなるよう、枠組みを作成したのが本書です。企業研修／生涯学習／地域づくり等の現場で、何か一つでも皆様のお役に立つ内容があれば幸いです。

様々な検討にあたり現地の関係者やその他支援をいただいた皆様をはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆様に感謝します。特に東京都市大学の佐藤真久先生には、学術的背景をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。

2022年3月環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会WG



2

■ 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

■ 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

- 事業着手にあたり、プラットフォーム(PF)新規採択1団体へのヒアリングを実施し、ヒアリング結果を所定のヒアリングシートに整理すると共に、支援計画シートを作成し、中部地方環境事務所と共有のうえ、PF 事業支援事務局本部に提出した。
- また、環境整備団体・計2団体それぞれの意見交換会実施を支援し、関係者の課題共有や地域の未来像・将来の取組に対する考え共有などのワーキングを実施した。

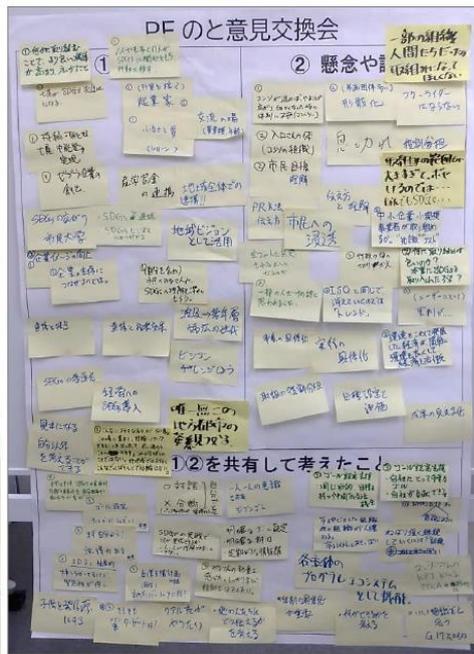
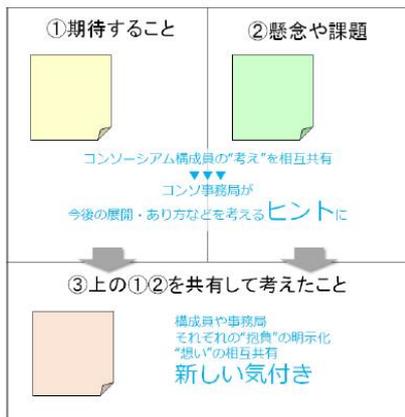
【新規団体を対象にした事業着手時ヒアリングの実施】

活動団体名	実施日等	ヒアリング項目
のと共栄信用金庫 (石川県七尾市)	4月19日 オンラインで実施 PF団体側から 10名が出席	Q.1: 本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは？ Q.2: 地域循環共生圏を実現した地域の姿・イメージ(短期/長期)とは？ Q.3: 今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか？ Q.4: 事業を進める上での資源や強みとは？ Q.5: 事業を進める上での課題とそれを解決するための方策などは？ Q.6: 事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは？

【地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等業務の実施】

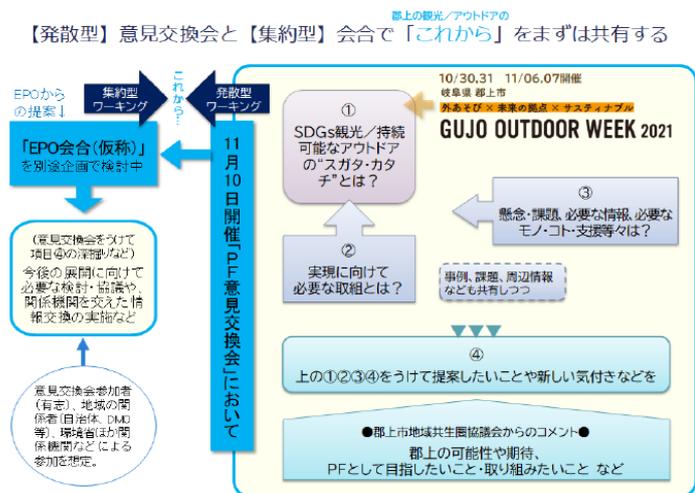
PF 採択団体	実施日等	実施内容
【新規採択団体】PF ななお のと共栄信用金庫 (ななお SDGs プラットフォーム)	9月29日 会場:七尾商工会議所(石川県七尾市) 地域側関係者 20名が出席	プラットフォーム設立に対する期待・課題の共有ディスカッション
【継続団体】PF 郡上 郡上市地域共生圏協議会	11月10日 会場:HUB GUJO(岐阜県郡上市) +オンラインで実施 地域側関係者 8名、財務事務所 3名が出席	郡上市アウトドア事業者協議会、郡上市をまじえて、郡上のアウトドア観光の将来の“スガタ”“カタチ”についてディスカッション

PF事業支援①：PFのと共栄信用金庫→ななほおSDGsスイッチ（1年目採択団体）



- 9月29日に(PFコンソーシアム設立を前に)、関係者が集まる「意見交換会」をハイブリッド開催で実施。EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援。
- コンソーシアム関係者が抱えている懸念・課題を明確化し、コンソーシアム設立(10月16日設立式)に向けて、協力・連携体制のさらなる強化を図った。

PF事業支援②：PF郡上市地域共生圏協議会（2年目採択団体）



- 11月10日にSDGs実践意識を持つアウトドア事業者と採択団体による「意見交換会」を実施し、EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援。
- アウトドア事業者が目指している観光のあり方を明確化し、次ステップで「地域商社」設立について議論することになった。

地域循環共生圏の担い手（団体等）との関係構築

- 地域での地域循環共生圏に通じる担い手を把握し、関係性を構築することを目的にヒアリングを実施し、情報提供等も行った。(※当初2団体が対象となっていたが、次年度・令和4年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択予定数が8団体と、各地方1団体程度になると予想されたため、中部地方環境事務所と協議のうえ、1団体へのみヒアリングを実施した。)

ヒアリング内容	越前エリアにおける里山里海保全活動の収益化による地域循環共生圏づくりについての取組概要、地域循環共生圏づくり事例としての循環要素、ステークホルダーとの関係性などをヒアリング
対象者	合同会社ローカル SD クリエーション社長 三田村佳政氏 ※EPO 中部・協働コーディネーター
実施日・方法	2月3日にオンラインによる対面方式で、ヒアリングを実施

■ 森川里海推進ネットワーク形成会合の開催

- 森里川海と地域経済をつなぐことを目的として、森川里海推進ネットワーク形成会合を白山エリア(白山国立公園、白山手取川ジオパーク、白山ユネスコエコパーク)関係者と協力して実施した。

区分	開催日	参加者	実施内容	開催方法
白山手取川ジオパーク&白山ユネスコエコパーク情報交換会	第1回 3月2日	25名	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマは自然資源のワイズユースとローカルSDGs ● 白山手取川ジオパーク、白山ユネスコエコパークの関係者、及び連携協定締結団体などに参加を呼びかけて実施。 ● 筑波大学准教授・飯田市、白山自然保護官事務所、北陸財務局による登壇あり。 	会場: 白山市鶴木総合文化会館 + オンライン(一部登壇者のみ)
	第2回 3月3日	27名		

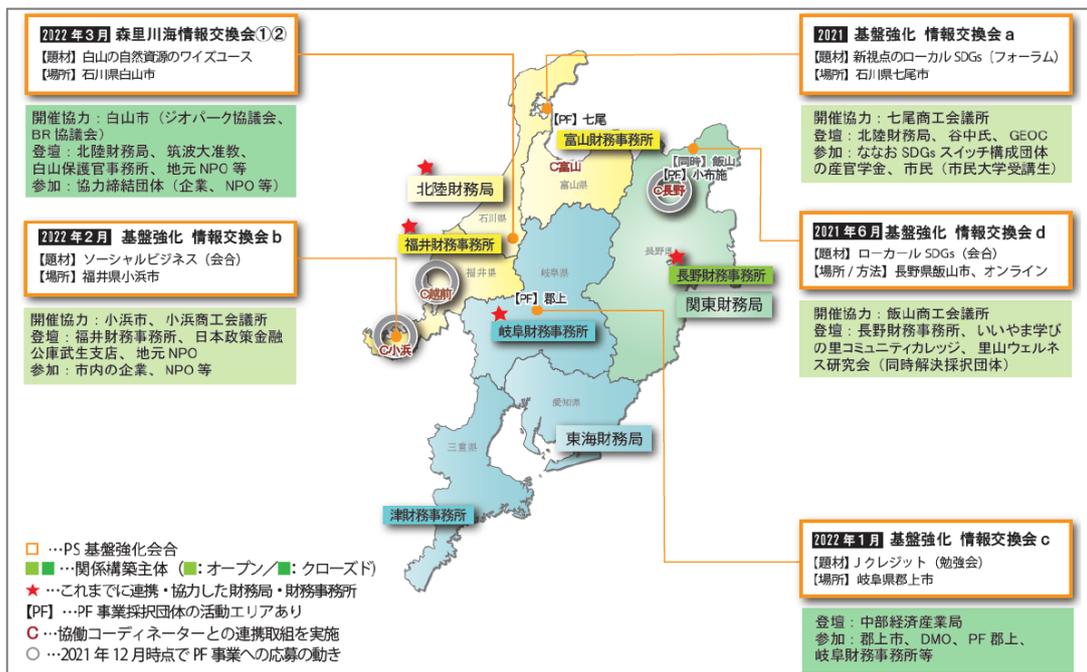
プログラム	
第1回 情報交換会	01 はじめに/森里川海プロジェクトについて 環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査 佐藤 聖大 氏
日時: 2022年 3月2日(水) 13:30~16:00	02 環境省からの情報提供 「白山国立公園における取組について」 環境省白山自然保護官事務所 自然保護官 迫 裕樹 氏
会場: 白山市鶴来総合文化会館クレイン 2階・研修室	03 インプット① 「地域が主役のユネスコ活動:白山手取川ジオパークと白山ユネスコエコパークの共有価値とは?」 筑波大学芸術系(世界遺産学学位プログラム・自然保護寄附講座)准教授 飯田 義彦 氏
	04 インプット② 地域の取組紹介 白山手取川ジオパーク推進協議会 専門員 日比野 剛 氏
	05 ワークショップ 「白山のワイズユース(恵みの保全・活用)によるローカルSDGs」【その1】 — 決したい地域課題の抽出・共有

プログラム	
第2回 情報交換会	01 はじめに/地域経済エコシステムと北陸財務局における地域連携・貢献の取組 財務省北陸財務局総務課企画調査官 前田 雅城 氏
日時: 2022年 3月3日(木) 9:30~12:00	02 話題提供:地域の取組事例より NPO法人白山しらみね自然学校事務局長 山口 隆 氏
会場: 白山市鶴来総合文化会館クレイン 2階・研修室	03 ワークショップ 「白山のワイズユース(恵みの保全・活用)によるローカルSDGs」【その2】
	03-1 — 《前回のふりがえり》皆さんが解決したい地域課題について
	03-2 — これから皆さんが取り組みたい事業・地域課題解決ビジネス等のアイデア抽出と共有
	03-3 — 終わりに/2日間のまとめ



■ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

- 地域循環共生圏の相貌を推進するため、企業及び地域金融や経済団体を含めたパートナーシップを強化する目的で、4つの会合を開催した。



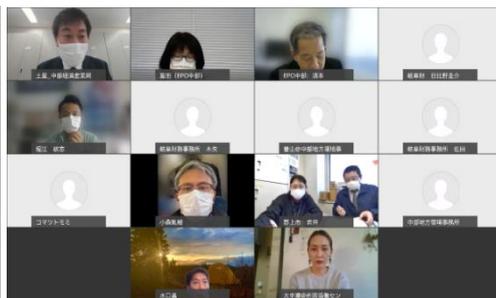
開催日	開催日	エリア	参加者	実施内容	開催方法	
①	ローカル SDGs × 飯山ミーティング	6月26日	長野県 飯山市	22名	<ul style="list-style-type: none"> 2018-2019年度実施の同時解決事業採択団体、長野財務事務所ほか、飯山市の地域づくり団体などが登壇 	オンライン
②	郡上ミーティング	1月27日	岐阜県 郡上市	15名	<ul style="list-style-type: none"> PF 郡上による「J-クレジット」をテーマに意見交換を実施 郡上市、岐阜財務事務所などが出席。 	オンライン
③	小浜 × ローカル SDGs × 地域ビジネスミーティング	2月4日	福井県 小浜市	22名	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動のソーシャルビジネス化をテーマにした意見交換を実施。 北陸財務局、日本政策金融公庫などが登壇・参加。 	オンライン
④	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化フォーラム in 七尾	2月23日	石川県 七尾市	26名	<ul style="list-style-type: none"> PF 採択団体が主催する市民大学受講生や、PF なお SDGs スイッチ関係者などを対象に開催。 BBT 大学教授・谷中氏、北陸財務事務所等が登壇。 	会場：七尾商工会議所 YouTube 配信

ローカルSDGs × 飯山 ミーティング
主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)
https://www.epo-cbiba.jp

開催日時：2022年6月26日(土)14:00～16:00
開催方法：オンライン(ZOOM)
参加方法：事前申込

プログラム

- はじめに/地域循環共生圏 (SDGs) 地域課題の同時解決 等について 環境省中部地方環境事務所環境対策課長 曾山 信雄 氏
- 妙高市御前山国立公園における自然学習管理運営の取組について 環境省自然環境政策推進所国立公園課長 岸 秀康 氏
- 地域経済エコシステムについて 財務省関東財務局長野野村事務所長 矢島 一郎 氏
- 「飯山地域循環共生圏」(地域SDGs)を採択した同時解決事業採択の取組の紹介 里山ウェルネス研究会代表 吉澤 豊 氏 里山ウェルネス研究会事務局長 大和田 正樹 氏
- 奥能登における内発的なSDGsとコミュニティレジリエンスの地味実践 法政大学人間環境学部教授 小島 聡 氏 (いりやまの環境コミュニティレジリエンス)
- 質疑応答ディスカッション ファシリテーター：EPO中部



▲②郡上ミーティングの画像



▲④地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化フォーラム in 七尾の画像

小浜 × ローカルSDGs × 地域ビジネス ミーティング
開催案内

開催日：2022年2月4日(金)13:30～15:30
参加方法：ZOOM
※事前の参加申込や参加申込は(不参加)です

プログラム

- はじめに/地域循環共生圏 (SDGs) 地域課題の同時解決 等について 環境省中部地方環境事務所環境対策課長 曾山 信雄 氏
- 妙高市御前山国立公園における自然学習管理運営の取組について 環境省自然環境政策推進所国立公園課長 岸 秀康 氏
- 地域経済エコシステムについて 財務省関東財務局長野野村事務所長 矢島 一郎 氏
- 「飯山地域循環共生圏」(地域SDGs)を採択した同時解決事業採択の取組の紹介 里山ウェルネス研究会代表 吉澤 豊 氏 里山ウェルネス研究会事務局長 大和田 正樹 氏
- 奥能登における内発的なSDGsとコミュニティレジリエンスの地味実践 法政大学人間環境学部教授 小島 聡 氏 (いりやまの環境コミュニティレジリエンス)
- 質疑応答ディスカッション ファシリテーター：EPO中部

▲③小浜 × ローカル SDGs × 地域ビジネス ミーティングの開催案内

「SDGs 共感ストーリー」ワークショッププログラムの整理

- 前年度・2020 年度に実施した「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」づくりワークショップの内容を、プログラム及びツールとして整理し、EPO 中部ウェブサイトで公開した。

EPO中部のワークショップ・プログラム

ご活用ください！

SDGs共感ストーリーづくりワークショップ

目的

ワークショップの流れ (90分程度)

ワークシートの流れ (90分程度)

目的：自身の数値とSDGsの関わりについて共感をもって書いてもらえる物語を考える

●SDGs とのどんな関わりを物語にするかを考える

○自身の数値とSDGsの関わりを確認 (5分)
記入していない人は記入、記入してある人はそれを確認
自分の数値を中央の枠に記入する。
- 数字ワークシートを記入、関連のあるゴールと線を引く。
- なぜそのゴールと関連するかを記入する。

○その中から一つ一つ読んで説明内容を記入する (人に読んでもらえる内容であればあるほど)。(10分)
- 数値内容やなぜそのゴールに貢献するかを説明する

●共有する物語を考える (ワークシートに記入)

○SDGsのゴールに貢献して幸せになる主人公を考える (5分)
例) ゴール11 海の生態系の健全
- 魚が獲れなくなって困っている漁師

○考えた主人公から見た、SDGs への貢献で幸せになる物語を作ってみる (15分)
- 主人公が困っていたこと
- 困っていた原因
- 「その数値」が解決に貢献してくれた (「それはすの」) こと
- 「その数値」の内容、誰がどこでどんな人となんかしているのか
- 「その数値」の貢献とどんな変化が起きた (起きた) のか
- それによって主人公がどのように幸せになった (なる) のか

○共感をもってその主人公の物語を聞いてくれるのは誰か、その人が説明すべき対象 (5分)

●物語を発表、人気投票 (10分)
- 主要メンバー3割くらいを発表、参加者全員で人気投票

使用したスライド、ツール資料なども公開。



ESD/EPO の行事を通じた行動変容の把握

代表的な行事後の行動変容の把握

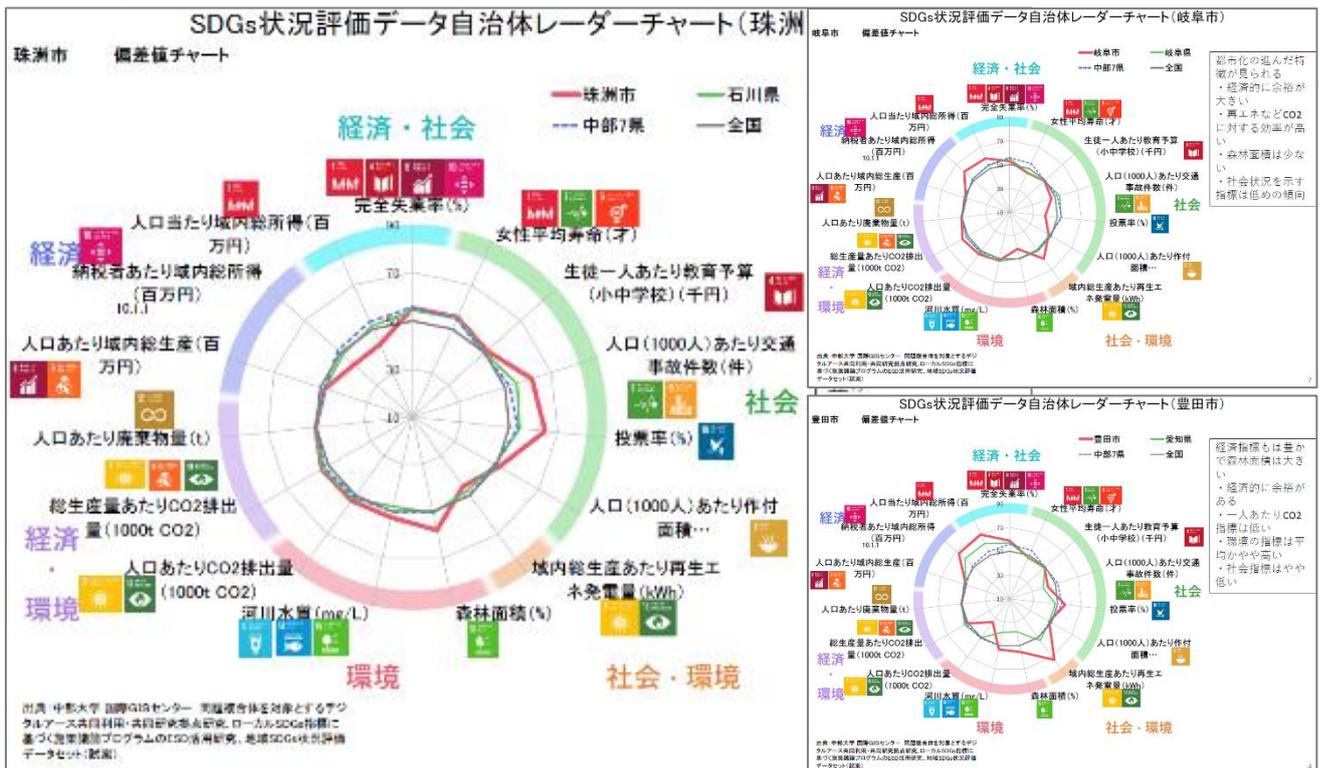
- EPO 業務、ESD 業務、及び地域循環共生圏業務で連携等した関係主体に簡易ヒアリングを実施し、イベント業務等の各業務における成果として、関係者・登壇者等の行動変容について把握する調査を実施した。

業務	2021年11月20日開催・越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム
対象	(登壇者／開催協力)合同会社ローカル SD クリエーション
内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> • 参加した地域活動者・団体による地域循環共生圏づくりに取り組もうとするモチベーションが向上。次年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業への応募に向けて、調整を進めているところである。 • ワークショップで抽出された様々なアイデアや意見を、参加者が所属団体に持ち帰り、各団体の次年度計画等へ反映しようとする動きもみられる。
業務	2021年9月11日・12月17日開催・小浜市地域循環共生圏ワークショップ
対象	(共催・協働コーディネーター)NPO 法人 WAC おばま
内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> • 第1回目のワークショップが特に市役所職員にとって参考となったようで、開催後に全職員を対象に開催してほしいといった声が聞かれた。 • 小浜の地域づくり・まちづくりは、従来の地域活性化一辺倒から中々脱却できずにいたが、まちづくり協議会等の勉強会参加者が、SDGs や地域循環共生圏など、持続可能な地域づくりに向けた新しい潮流について理解してもらうことができた。

(ほか4件／計6件のヒアリングを実施)

地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価

- 地域 SDGs 評価メニュー、プログラム等の情報収集を行い、3地域(珠洲市、豊田市、岐阜市)を対象に SDGs 評価を試行的に実施し、2月19日開催・SDGs/ESD ネットワークフォーラムにおいて活用した。



関係主体との連携及び協働に関する業務

中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回以上実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。
- 日々の業務について、毎月、所定の様式の報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

中部地方環境事務所が主催する会議への出席、資料作成対応等として実施したこと

行事等	実施日	EPO 中部による対応
環境白書を読む会	7月20日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 7月20開催の「環境白書を読む会」について、主催の中部地方環境事務所、なごや環境大学への企画協力、登壇者への謝金支払などを行ったほか、参加者募集の広報協力をウェブサイト、Facebook ページで展開した。 当日は EPO 中部スタッフもオンライン聴講参加した。
全国ユース環境活動発表大会 (中部大会)	(オンライン開催に変更)	<ul style="list-style-type: none"> 審査員として、堺勇人氏(一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長)を推薦した。 ブロック別大会が、オンライン開催に変更となったことをうけて、2022年1月に公開された中部ブロック大会を YouTube で視聴し、EPO 中部ウェブサイトに紹介記事を掲載した。
外部評価委員会	2月14日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度 EPO 中部業務報告資料、及び自己評価シートを作成・記入した。 EPO 中部スタッフ3名が同席し、上記資料の説明、質疑対応などを行った。

【外部評価委員会に提示した 2021 年度 EPO 中部業務の説明資料 (2022 年 1 月末時点作成)】

<p>環境省 中部地方環境事務所</p> <p>第6期・EPO中部/ 中部地方ESD活動支援センター</p> <p>2021年度の業務報告</p> <p>2022年2月14日</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第6期・EPO中部 中部地方ESD活動支援センター</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2021年度の業務報告</p>	<p>主催イベント・会合等の開催・運営</p> <ol style="list-style-type: none"> EPO中部主催イベント・会合 ESDセンター主催イベント・会合 <p>地域循環共生圏づくりの支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 主に実施した支援 具体的な支援対象: PF団体や連携団体 <p>独自ツール等の作成・活用</p> <ol style="list-style-type: none"> EPO中部ウェブサイト公開ツールの充実化 中部版ESDワークブックの作成 SDGs実践状況等の評価: SDGs指標物語の構築・活用 <p>相談対応等の基本業務</p> <ol style="list-style-type: none"> 相談問合せ件数と対応状況 ウェブサイトの更新状況とアクセス数 第6期EPO中部(中部ESD活動支援センター)の新リーフレット作成 <p>参考)</p> <p>業務成果把握のためのヒアリング(行動変容ヒアリング)</p>
---	---	---

相談対応からの展開 ; 自治体との連携

「NISHIKI SDGs WEEKs」への企画参加

- 名古屋市環境局からの相談対応(後援依頼)をきっかけに、なごや環境大学主催イベントに、EPO中部施設を活用する形で2つのプログラムで企画参加した。

① SDGsチェックリスト活用ミニワークショップ

- 2021年11月8日に、独自ツール「SDGsチェックリスト」等を活用した1時間のミニワークショップを、会場: EPO中部にて2回開催。
- 1回目・2回目合わせて13人が参加。



② EPO内に「SDGs資料の特設コーナー」を設置

- 2021年11月8～12日の間に、EPO施設内にSDGs資料コーナーを設け、自由に来館、配架資料の持ち帰りができることなどを、NISHIKI SDGs WEEKs関連広報でPR。
- 期間内に計18人が来館。

- ✓ 今回の参加者・来館者にはEPOのことをNISHIKI SDGs WEEKsで知った方もいる。
- ✓ その後、別イベントへの参加、SNSのフォローをしてくださった方もいる。

28

全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOG・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等として計 48 の会合(オンライン会議等)に出席した。

【参考】2021 年度業務一覧

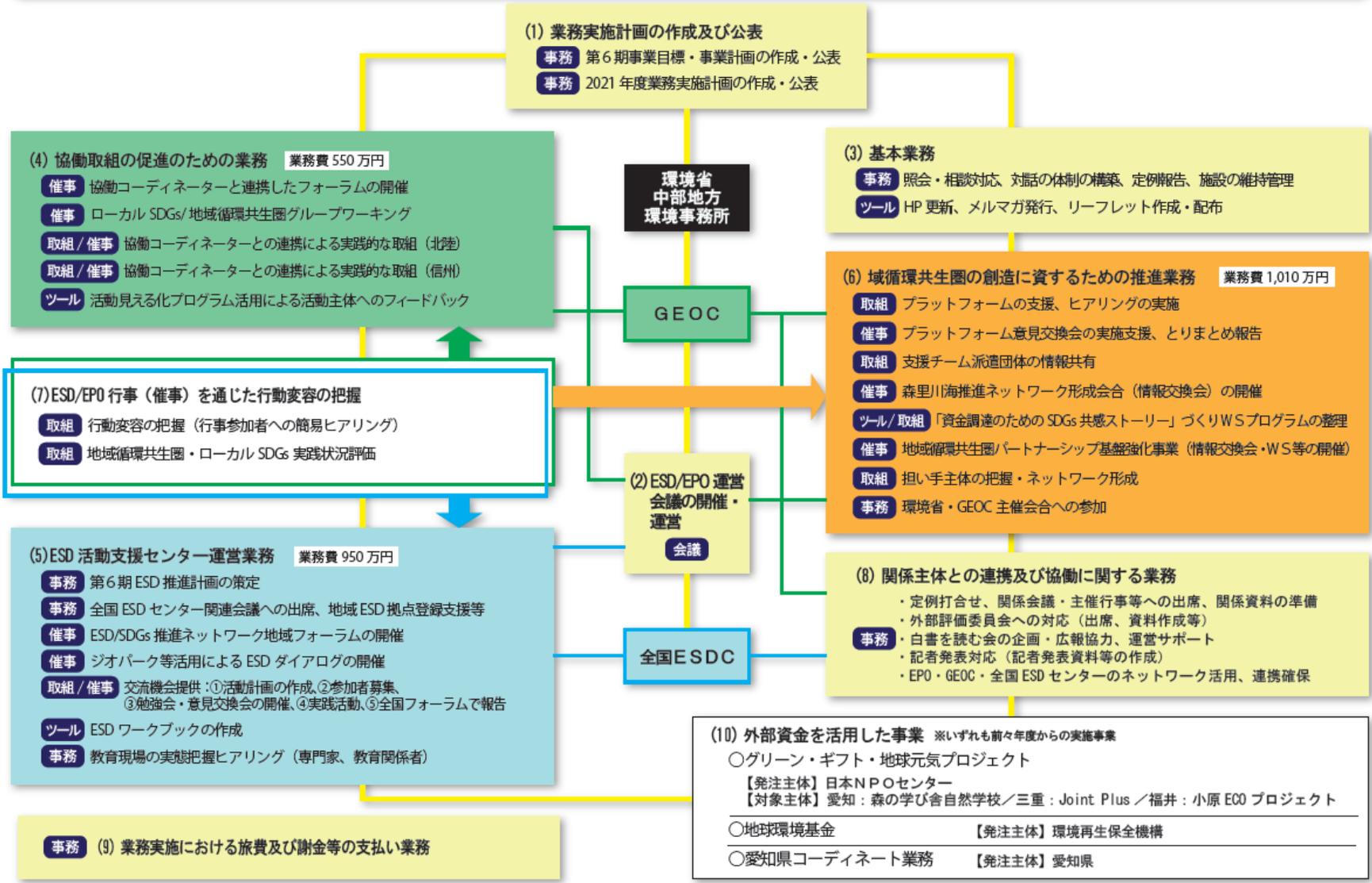
EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センター

業務費総額 3,773 万円

緑色：EPO 業務／水色：ESD 業務／赤色：地域循環共生圏業務／黄色：運營業務

※中部地方環境事務所、EPO は業務全体に関わる

年度目標 第 5 期に作成したツール・コンテンツの拡充と共に、地域循環共生圏づくり・SDGs 推進への支援システム（体制・仕掛け）を充実させます。



第 6 期 目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs 活用が進みつつある中部エリアにおいて、新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGs の実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO 機能強化の関係構築に取り組みます。